はざるを以て之を免ぜられんことを請ひ、三年六月に至つてその管轄を解除せられることを得た。

ホクカイヘンヨウコウ　北海邊要考　五册。森田平次が明治三十八年の著で、六國史等により、異人來朝・漂流・交易等の記事を擧げ、之が解說を施したものである。

ホクガンインシユウ　北巖寅嘯　能登曹洞宗雲光寺の開山で、俗姓は原氏、甲斐の人である。十七歲の時定慧により薙髮得度し、出でゝ勝光寺天永・天應寺慧照に參し、終に宗關寺豁州達翁から印可を蒙つた。後總持寺に出世し、松門・信松・宗關の諸寺に歷遷し、晩年雲光寺を剏めて逸老した。寬文二年十二月二十五日寂。

ホクケイ　北莖　↓ワタヤホクケイ　綿屋北莖。

ホクコクジユンジヨウキ　北國巡杖記　五册。外題には奇談北國巡杖記とし、內題に北國奇談巡杖記とする。金澤の俳人烏翠臺北莖著。第一卷加賀、第二卷越中、第三卷能登・越後、第四卷佐渡、第五卷若狹・越前の風光・物產・奇談等を記し、陳士烏翠臺自序、洛南閑田廬蒿蹊陳人の序、文化みつのとし寅霜降月大酉洞竹軒の跋がある。同四年京都書林唐本屋新右衞門等板。この書には著者の北莖を北莖と刻してある。

ホクコクブリ　北國曲　七册。名古屋の俳人露川著。享保七年京杉生五郎左衞門等板。露川は享保六年二月から十一月まで行脚したのであるが、その加賀に入つたのは五月であり、山中・小松・元吉・金澤で風交をなした。集中には能登所口の俳人の歌仙表六句が載せられて居るけれども、紀行文で見ると加賀から直ぐに越中に入つたのである。

ホグサガシ　反故さがし　一册。金澤の俳人龜町編。序跋刊記はないが、首に享保十四年己酉之夏とあり、五月十四日東山双林寺閑阿彌亭で、麥林・吾仲・酒堂などゝ一座した歌仙が載せられてゐる。

ホクシ　北枝　↓タチバナホクシ　立花北枝。

ホクシカイ　北枝會　一册。金澤の俳人眉山編。北枝歿後七十二年に當つて催された脇起七十二韻の附合を載せ、その追悼の爲にしたものである。卷初に、元祿甲申支考の序を有し蠢智院の地藏尊の夢想の發句による附合のあるのも、その中に北枝が一座してゐるからであらう。卷末に『寬政十一未の晩秋菊月十二日卯辰山春日社家に於て、北枝會と申そめけり秋しぐれ　眉山』の句がある。刊記は無い。

ホクシコウ　北枝考　俳人北枝の著とせられるもので、天保七年の序をもつ閑日庵鴎里の三四考中に收められる。俳諧の附合の作法をしるす。

ホクシデン　北枝傳　一册。元祿五年金澤の俳人北枝著。この書は附合の格式、自他の續け方に關する口傳を述べたものである。奥書に、北枝が三年の工夫を以て芭蕉に見せた一法であると記し、久しく世に隱れてゐたのを、故あつて槐庵雪雄の家に傳はつたといふ享和元年の奥書もある。又天保七年の序をもつ閑日庵鴎里編の三四考に收められた附方自他傳も、近江屋又七開板山中問答の附錄として收めた北枝叟考も同一であり、附方自他傳とはまた附方八方自他傳と言ふこともある。

ホクシドウ　北枝堂　金澤蕉風俳人の庵號。

ホクシホツクシユウ　北枝發句集　一册。年風初めて之を稱し、その子江波繼席した。加賀の俳人北海著。北枝の詠句を拾ひ集め、四季に分かつて一卷としたものである。その句數春四十五句、夏廿五句、秋四十句、冬廿四句、合計百三十四句に過ぎぬ。天保壬辰春梅室素芯の序、天保壬辰陬月下浣鴎嶼閑人守邨(抱儀)の跋がある。板元不明。著者の傳も不詳。

ホクシユウキコウ　北州紀行　一册。葛卷昌興著。元祿五年九月廿七日著者が前田綱紀に供奉して、江戸から金澤へ歸つた時の紀行である。

ホクシユウザツシ　北州雜詩　一册。平岩仙桂著。寬文元年十月仙桂が藩侯前田綱紀の東覲に扈從した時の詩五十餘編を集めたもので、發金澤の第一聲から到浦輪の終吟に及んでゐる。仙桂はこの行に於いて到る所の觸目を詩に賦し、成れば卽ち侯の閲覽に供して、長途の旅情を慰めたのであつた。

ホクシユン　木俊　金澤の盲人。名は俊郁、號は浮山。木はその氏か屋號かを修したのであらう。三歲にして明を失ひ、三味線を以て業としたが、性風雅にして小瀨四溟に詩を學び、律絕題に應じて成らぬはなきに至つた。

ホクジヨウ　北丈　↓ナガトホクジヨウ　長門北丈。

ホクジン　北塵　↓サツサホクジン　佐々北塵。

ホクチヨウイブン　北徵遺文　十册。森田平次編。著者が青年以來加越能三州の神社・佛閣及び諸舊家傳來の古文書を見る毎に、或は影寫し、或は模寫し、又或は謄寫したものを集める。

ホクチヨウカソウキ　北長家騷記　三册。一頓散人著。石川郡粟ヶ崎村の豪富木屋藤右衞門が、加賀藩の財政整理の事に與つたを奇貨として、私利を計らんとし、遂に家財の半額を關所に附し、營業を停止せられるに至つたことを小說體に記載したものである。藤右衞門が天明五年に禁獄せられたことはあるが、本編記載の事は全く架空と思はれる。

ホクチンハクリツニスウロク　北鎭白立二崇錄　二册。富田景周著。白山と立山との事歷を古今の記錄に徵して記したものといふが、現存するや否やは不明である。

ボクドウ　牧童　↓タチバナボクドウ　立花牧童。

ホクドウリズ　北道里圖　貞享年中有澤永貞の著す所。金澤より江戸に至る途上、驛路の距離、河川の廣狹、山嶽の方位等を記し、室鳩巢之に跋文を加へた。

ホグノウラガキ　反故裏書　↓ホゴノウラガキ　反故裏書。

ホクハンカクシキケンヨ　北藩格式權輿　一册。淺野栗齋著。加賀藩で寬永二十年から正德四年の間に起つた諸事を集錄したもの。例へば寬永二十年東照宮廟を設け、慶安四年水車で火藥を造ることになつた類である。栗齋は周左衞門政周の號であるから、それであらう。

ホクハンネンシレイテン　北藩年始禮典　一册。高木有制著。藩初以來年始の禮は略同じかつたが、文化五年城中殿閣燒亡し、六年